

屋嶋城跡

城門遺構整備事業に伴う現地説明会



日 時 平成22年2月7日(日)

午後1時から

場 所 高松市屋島東町 屋嶋城跡城門

主催 高松市教育委員会教育部文化財課

これまでの経緯

- 平成 10年 地元研究者が屋嶋城跡の南嶺南西斜面で城壁の一部を発見
- 平成 13年～ 高松市教育委員会による発掘調査の実施
- 平成 14年 城門の発見
- 平成 19年 整備事業の開始（工事は平成 20年から）

①城門北側城壁に取り付く内側城壁（内壘城）



土器の出土状況

埋められていた石垣



城門の南側壁

②城門側壁の背後から出現した石垣状遺構



③石垣が城門にとりつく箇所



④高石垣とよばれる最も高くまで石垣が残っている箇所
高さ約6m

平成 19 年度に実施した現地説明会以後の発掘調査によって以下の点が明らかになりました。

- ①城門に入ると北側に抜けるように設計されていたこと。
- ②城門側壁の裏側に石垣状に石を積み上げていること。
- ③現存する石垣には横目地が通っている様子が明瞭に認められること。
- ④城壁や城門側壁の石垣裏側には、近世城郭のような裏込め石は認められず、盛り土に貼り付けるような構造をとっていること。
- ⑤岩盤を一部に取り込みながら石垣を築いていること。

整備事業の進捗状況

整備事業に伴う城門遺構の解体工事は昨年度から開始され、今年度は城門の南側部分を解体し、城壁構造の解明を行い、それをもとに平成 22 年度に石垣の積み直しを実施する計画になっています。城門の北側についても解体および積み直しを実施する予定です。

今年度の解体工事は、石垣の石の番付け（ナンバリング）、墨打ち、石垣の背面構造の記録を取りながらの解体が進んでいます。



調査の状況



墨打ち



回収した転落石（H20年度）



ナンバリングした石（H20年度）



番付けの状況



墨打ち後の状況